

小学校における道徳性育成のための心の教育総合プラン  
—「話し合い活動」を通じた道徳の授業づくりを核にして—

教育実践高度化専攻  
心の教育実践コース  
M07309D  
増井 眞樹

## I 「心の教育」に関わる問題意識

今日の青少年の特徴に、規範意識の希薄、自律心の弱体化、コミュニケーション力不足と自尊感情の低下が挙げられる。この課題解決に向けて、戦後の社会哲学者であり、現代社会にも通ずる理論の提供者であるハーバーマスのコミュニケーション的行動理論及びコールバーグの道徳性発達理論に基づいた「話し合い活動」を核としたプランを構想する。

## II 小学校における道徳性育成のための「心の教育」総合プラン

本プランの中心は、意見の根拠や理由づけに重点を置いた話し合い活動である。児童自らが話し合い活動のルールを決めていく中で、規範意識やよりよい人間関係を構築する。道徳の時間には、意見の根拠や理由を話し合うことで、道徳的判断力を高めることができる。

### プログラム1

【学 年】 第4学年以上 【時 期】 学期に1回

【時 間】 道徳の時間

【資 料】 話の中心に葛藤場面のあるもの

【展 開】

- ①論点を明らかにする
- ②(ワークシート)判断の理由を選んで、発表する
- ③論点がわかるような板書の工夫
- ④判断がわかりやすいように、赤白帽や札で工夫する

⑤児童を判断のぎりぎりのところまで追い込む

⑥最終判断を書く

【留意点】

○学級活動における話し合い活動のプログラムとセットで行う。

○話し合いの目的、ルールを共通理解

児童に出会わせたい道徳的判断とその理由を事前に用意しておく。児童は、自分が考えなかった理由に触れて、理由の根拠を考え始める。また、根拠を述べる話型を提示すると、児童は理由をつける話型を意識し発言が活発になる。

### プログラム2

【学年】 第4学年 【時期】 学年初め、学期初め

【領域】 特別活動(学級会)

【テーマ】

学級の中での話し合いがうまくいっているかどうか

- (1) これまでの問題点を出し合う。
- (2) どういうルールをつくらうか話し合う。
- (3) 先生からの提案  
話し合いの目的を確認する。「より良い結論を出すためである」「みんなが納得する」
- (2)で出されたもの以外について、付け足す。
- ①必ず理由をつけて、自分の意見を言う。
- ②理由がわかったら、その意見は正しい。
- ③人の意見は、じゃましないで、しっかり聞く。
- ④必ず自分の意見を言うか、賛成の気持ちを伝える。

ハーバーマスの理論を拠り所として、話し合いのルールを話し合いで決める。この課題は、学級経営にも関わるが、教科や道徳の時間だけでなく、朝の会や終わりの会など、学校生活の全ての場面で行う。

### プログラム3 児童会活動

「主体的に活動する子どもの育成」のためには、自分たちの手で話し合い活動や係活動はもちろん、クラスを自分たちで創っていくのだという意識を高く持って、日常生活を行っていきけるよう指導していく。そのためには、「話し合い活動」の充実を図った上で、「計画案づくり」に重点をおく。その際、重要なのは、計画案の内容の根拠である。根拠を明らかにすることで、合意形成が可能になるのである。

### プログラム4 —キャリア教育—

自分自身に価値を見出し、夢や希望を抱かせ、中学校への橋渡しをさせたいと考え、夢や希望を膨らませて生きてこられた方の話を聞くことと和 문화にふれることを通して、自己を省みる（自己内対話）機会を得るプログラムを考えた。

【学 年】第6学年 【時 期】3学期

【時 間】総合的な学習の時間

【内 容】夢や希望、努力の大切さを学ぶもの：「発明と工夫に関する出前授業」「ジャグリング」、伝統文化に触れて自己内対話ができるもの：「作法教室」「茶道」「座禅」

【計 画】卒業式よびかけ、卒業文集、卒業制作、卒業コンサート等の実施計画運営と合わせる。

### プログラム5 心のしくみがわかるプログラム

意見の根拠や理由づけを豊かにするために、論理的思考を培う事象を提示したり、思考や感受性の幅を広げ、自主性を育んだりする体験や活動を盛り込んだプログラムである。

【学年】全学年 【時期】随時

### 【領域】特別活動(学級指導)

【内容】後出しジャンケン(負ける)、男の子の赤いランドセル、男の子のスカート、思い込みの間違い、錯覚

「当たり前」と思っていたことに立ち止まって見直そうとする意識が生まれたり、習慣の恐ろしさを感じたりすることができる。暮らしの中で、習慣として刷り込まれていくことに気づき、友だちのことも「みんなと一緒になければ」という感覚から、「人はそれぞれ違うものだ」「人は自分とは違うこともあるのだ」という感覚を体得することができる。自分の目で見たから、間違いがないという意識を、子どもたちは強く持っている。自分の見たものや信じたものが、時には違っていることに気付くのである。

### Ⅲ 「心の教育」総合プランの成果と課題

道徳の時間には、根拠を明らかにしながら行う話し合い活動においては、道徳的判断力の伸長が見られる。さらに、特別活動における話し合い活動とセットで行うことで、学校の教育活動の全ての場において、「意見を述べる際には理由をつけて述べる」ことが児童に意識される。その上、話し合いの中で話し合いのルールをつくっていくことができる。

このように、考えの根拠や理由を大切にする指導者の姿勢や教育活動が、今日の青少年のよりよい成長に対応するものであり、児童に「生きる力」を育むものと考え。重要なことは、指導者自身が恒常的に考えの根拠や理由づけを大切にしたい教育活動を意識できるかどうかである。

主任指導教員 渡邊 満

指 導 教 員 渡邊 満

小寺正一

淀澤勝治